

教科・科目		国語・古典探究	
対象	( 総合自然科学 ・ 普通 ) 科 ・ 第 ( 1 ・ 2 ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 思考力 ・ 発信力 ・ 共感力 )		
単元名	『源氏物語』「若紫との出会い」		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	5分	1 『源氏物語』が享受されてきた歴史を知る。 2 本時の目標をつかむ。	1 『源氏物語』が現代に伝わるまでの歴史を説明することで、本時の学習に興味関心を持つことができるようにする。 2 本時の目標を知り、学習の見通しを持つことができるようにする。
	40分	3 大島本（教科書本文）と河内本を読み比べ、光源氏と惟光の描写がどのように違うか考える。  4 大島本（教科書本文）と河内本では若紫の描写がどのように違うか考える。  5 意見を共有する。	3 大島本と河内本を読み比べることで、助詞の違いや副詞の有無等によって、物語の読み方が変わることに気づくことができるようにする。 (1) 大島本と河内本を読み比べ、それぞれの記述の違いを見つける。 (2) (1)で発見した違いを踏まえて、それぞれの写本では源氏と惟光の描写がどのように違うか考える。 (3) 教科書に挿絵を載せるとすれば、「源氏物語絵色紙帖 若紫」と「源氏物語絵巻 若紫・末摘花 巻」ではどちらが適切なのか考える。 4 大島本と河内本を読み比べることで、一文の有無や接尾語の有無、語順の違い等によって、物語の読みが変わることを理解することができるようにする。 (1) 大島本と河内本を読み比べ、それぞれの記述の違いを見つける。 (2) (1)で発見した違いを踏まえて、それぞれの写本では若紫の描写がどのように違うか考える。 5 グループ・全体で考えを共有することで、多様な解釈があることを理解し、自分の解釈を深めることができるようにする。
	5分	6 本時のまとめをする。	6 本時の学習を振り返り、物語文を読むときに必要だと思ったことを記述することで、今後の実生活に本時の学びを生かすことができるようにする。
評価計画	・ 文語のきまりを踏まえて写本を読み比べし、自分の解釈を深めることができる。		
評価材料／観点等	ワークシート／思考力		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	国語・古典探究	
対象	( 総合自然科学 ・ 普通 ) 科 ・ 第 ( 1 ・ 2 ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ 思考力 ・ 発信力 ・ 共感力 )	
単元名	『源氏物語』「若紫との出会い」	
学習活動	教科書本文と異なる写本を読み比べ、文法の違いによって物語の解釈がどのように変化するのかを考える。	
評価方法	・文語のきまりを踏まえて写本を読み比べし、自分の解釈を深めることができる。	
生徒の変容	<p>これまで授業中の生徒の様子を見てみると、古典の文法事項の学習に対する受動的な姿勢が伺われた。しかし、本実践の中では写本の比較をすることで、細かな文法事項の違いによって、物語の解釈がどのように変化するのかを思考する様子が見られた。</p> <p>このことから、生徒は本実践を通して、これまで特段意識していなかった文法事項が物語を解釈するうえで重要な要素となるという意識や文法事項を意識しながら物語を解釈しようとする姿勢を培うことができたのではないかと考える。</p>	
研究協議の内容・まとめ	<p>【授業内容について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入の時点で文法事項の違いが物語の解釈の違いにつながるという実感をもたせるための手立てが必要であった。</li> <li>→本時の導入として設定していた「光源氏と惟光の描写の違い」を考える活動では、生徒にとって本文比較をする活動をする初めての機会であったにもかかわらず、比較をする観点を多く設定しすぎた。そのため、どこに注目して比較すればよいのか混乱している生徒も見られた。そこで、導入では、「どちらの挿絵が適切か」を助詞の違いを踏まえながら考える活動に絞るべきであった。また、授業時数を多く確保できる場合には、「光源氏と惟光の関係性の描写の違い」を考える導入の活動により多くの時間をかけてもよかった。</li> <li>・生徒が興味関心を持って活動に取り組むことができていた。</li> <li>・自分の意見と他者の意見を踏まえながらグループ全体の意見を作り上げる必要があるグループ活動を通して生徒の思考力を育成することができていたのではないか。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画通りに終わらなかったため、時間配分を考える必要がある。</li> </ul>	

「授業研究会」「評価指導研究会」 指導計画

令和7年度実施

教科・科目	地歴公民科・公共		
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )		
単元名	豊かな生活と福祉の実現「消費者問題」		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	10分	1.日常生活における契約との関わりを問いかける。 2.生徒の発言例を共有。 3.本時の学習課題を確認する	・生徒が体験から発言しやすいよう、身近な例(スマホ契約、バイト、ゲーム規約など)を挙げて促す。
	35分	4.私法の基本原則(私的自治、所有権絶対、契約自由、過失責任)について、整理ノートで確認 5.物権と債権の違いを図や具体例で解説。 6.グループで事例を検討し、「どの権利が働いているか」「どの原則が関係しているか」を話し合う。 7.各グループから代表が発表し、事例の法的側面と原則の修正について説明。	・既習の自由権(経済的自由)との関係を整理する問いかけを行う ・事例プリントを用意(2~3パターン)し、複数グループで共有できるようにする。 ・適時機間巡視を行い、困っているペアにはヒントや選択肢を与える。
5分	8.学習課題に対する自分の意見をGoogleフォームに記入し、提出する。	・話し合いや全体共有を踏まえて、改めて自分の意見を整理させる。	
評価計画  評価材料/観点等	形成的評価:グループワークで机間巡視を行い、思考過程を把握する 総括的評価:振り返りの記述を学習課題に照らして評価		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	地歴公民科・公共	
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )	
単元名	豊かな生活と福祉の実現「消費者問題」	
学習活動	私法の原則と契約自由の原則を基礎に、消費者契約の事例検討を通して、企業と消費者の情報格差や契約自由の修正の必要性について主体的に考察させる授業を行った。	
評価方法	<p>形成的評価：グループワークで机間巡視を行い、思考の過程を把握する</p> <p>総括的評価：振り返りの記述を学習課題に照らして評価</p>	
生徒の変容	<p>本授業を通して、生徒は契約を「守るべき約束」として捉える素朴な理解から、契約自由の原則とその修正規定との関係を根拠に具体的事例を多面的に検討し、企業と消費者の情報格差や力関係を踏まえて妥当な解決を考察しようとする思考へと発展した。</p>	
研究協議の内容・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の軸となる「本日の問い」が抽象的で、生徒がどのような思考過程をたどるのかという設計が十分に明確化されていなかったため、到達目標と評価との対応関係が曖昧になっていた。</li> <li>・ 問いはより簡潔で焦点化された表現とし、授業を通して何を考えさせたいのかを明確にする必要がある。</li> <li>・ なぜ「契約」を学ぶのかという学習の意義付けが導入段階で十分でなく、18歳成人や実生活との関連をより強調することで、主体的な学びにつながる可能性がある。</li> <li>・ 事例検討自体は活発であったが、議論を本時の問いへと収束させ、学習内容を構造的に整理する教師のまとめ方に改善の余地がある。</li> <li>・ 評価場面 (Googleフォーム) においても、授業のねらいとの対応を明確にし、生徒の思考の深まりを的確に把握できる設計が求められる。</li> </ul>	

「授業研究会」「評価指導研究会」 指導計画

令和7年度実施

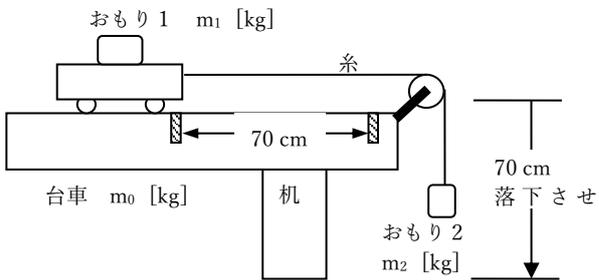
教科・科目	理数・理数数学 I		
対象	( <u>総合自然科学</u> ・ 普通 ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )		
単元名	三角比		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	導入 5分	<u>本日のテーマ</u> ・有名角以外の三角比の値を求めることはできるのか。 ・できるだけ小さい角の三角比で、求めることができるのは何度か。	$90^\circ - \theta$ , $90^\circ + \theta$ , $180^\circ - \theta$ の変換式を利用するとさらに幅は広がるので、今回は $45^\circ$ 以下の三角比を考える。
	展開 I 20分	・ $\cos 36^\circ$ の値を求める。 ・ $\sin 18^\circ$ の値を求める。	頂角が $36^\circ$ の二等辺三角形を図示させる。相似な三角形を見つけることができるか。
	展開 II 20分	・ $\sin 15^\circ$ の値を求める。 ・ $\sin(\alpha - \beta)$ を角 $\alpha$ , $\beta$ の三角比を用いて表す。 ・ $\sin(\alpha - \beta)$ を利用すると、何度の正弦の値を求められるか。 ・ $\sin 3^\circ$ の値を求める。	$15^\circ$ $75^\circ$ $90^\circ$ の直角三角形から求めることもできるが、後に一般化するので、今回は有名角を合わせた直角三角形を図示させる。また、正弦定理からも求めることもできる。
	まとめ 5分	<u>本日のまとめ</u> ・特定の図を用いることで、有名角以外の三角比の値を求められた。 ・加法定理を利用することで、さらに小さな角の三角比である $\sin 3^\circ$ の値を求めることができた。	<u>今後の展望</u> 今後いかにして、 $\sin 1^\circ$ の値まで求めることができるかを考えさせる。
評価計画  評価材料／観点等	求めたい三角比の値に対して、必要な三角形を図示し、相似な三角形を抜き出し、また、的確な補助線を引いて立式できたか。 $\sin 15^\circ$ の導出から一般化させることができたか。 ワークシートおよび授業中の発言より評価する。		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	理数・理数数学 I	
対象	( <u>総合自然科学</u> ・ 普通 ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )	
単元名	三角比	
学習活動	特定の図を用いて有名角以外の三角比を求める。それを応用して一般化させ、さらに小さな角の三角比の値を求める。	
評価方法	求めたい三角比の値に対して、必要な三角形を図示し立式できたか。類題問題を課して正答にたどり着けるか評価する。	
生徒の変容	問題に対して、関係のある図形を図示し答えを導こうとする姿が見られた。 課題解決に向けて、論理的に考えようとする者が増えた。	
研究協議の内容・まとめ	<p><math>\cos 36^\circ</math> と <math>\sin 18^\circ</math> を求める際に、頂角が <math>36^\circ</math> の二等辺三角形を図示させ、相似な三角形を見つけて立式していくが、なかなか図示してから相似な三角形を見つけることができなかった。適正な補助線を引くことを難しく感じている生徒が多く見られた。</p> <p>また、<math>\sin(\alpha - \beta)</math> の導出部分では、<math>\sin 15^\circ</math> の値を求めた流れで、有名角の比をそのまま用いる生徒や、図示した三角形から各辺の長さを求めることができない、文字を使った立式が苦手な生徒も多いことが分かった。時間的な制約があり難しかったが、一つ一つ発問していくべきであった。</p> <p>今後、必要なグラフや図等を用いて立式していかなければならない場合も増えていくので、正答にたどり着く道筋を論理的に考える習慣をつけさせていきたい。</p> <p>また、公式の導出等の機会には、証明することに対して少しでも抵抗がなくなるようにしていきたい。</p>	



教科・科目		理科・物理基礎	
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( 1 ・ <u>2</u> ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )		
単元名	力と運動 運動の法則		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	導入 5分	<p>【目的】力学台車の加速度を測定することで、運動の第2法則を確かめる。</p> <p>【実験方法】<b>実験Ⅰ</b> 力と加速度の関係 (全質量を一定にしたまま)</p> <p>(1) 台車の質量 <math>m_0</math> をはかる。(鉄板2個も一緒に)</p> <p>(2) 糸が机と平行になるようにクランプ付き滑車を机に固定し、糸を台車に取り付ける。</p>	
	実験 35分	<p>(3) 台車に 20 g のおもり 3 個を乗せ、20 g のおもりを糸に取り付ける。</p> <p><math>m_2</math> のおもりを滑車近くまで持ち上げ、糸が張った状態でおもりを落下させる。落下と同時に台車が 0.70 m 移動する時間を測定する。(あらかじめ机に 0.70 m 間隔の印をつけておくことよ)。落下させるおもりの下には雑巾を置き、床やおもりが傷つかないようにする。</p> <p>(4) 台車、おもりの全質量が変化しないように台車のおもりと糸につないだおもりを変えて同様の実験を 4 回繰り返す。</p> <p><b>実験Ⅱ</b> 質量と加速度の関係 (引く力を一定にしたまま)</p> <p>(1) 実験 1 と同じ実験配置で、糸につないだおもり <math>m_2</math> の質量を 50 g に固定し、実験を行う。</p> <p>(2) 台車に乗せるおもりを変えながら、台車が 0.70 m 移動するのにかかる時間を測定する。</p>	
考察 5分	<p>【考察】 実験結果より加速度、力、質量の関係を考える。</p>	<p>〈運動の法則について〉</p> <p>実験図について、糸の張力を <math>T</math>、物体の加速度を <math>a</math> とすると、(台車+おもり1) と (おもり2) についての運動方程式は</p> $(m_0 + m_1)a = T \quad \dots \textcircled{1}$ $m_2 a = m_2 g - T \quad \dots \textcircled{2}$ <p>となる。①、②より、この運動の加速度 <math>a</math> は</p> $a = \frac{m_2 g}{m_0 + m_1 + m_2} = \frac{F}{M} \quad \dots \textcircled{A}$	
評価計画	実験手順、実験方法、値の検証、グラフ、考察の内容により評価する		
評価材料／観点等			

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	理科・物理基礎	
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( 1 ・ <u>2</u> ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ <u>思考力</u> ・ 発信力 ・ 共感力 )	
単元名	力と運動 運動の法則	
学習活動	実験で物体を引く力と加速度の間に成り立つ関係を調べる	
評価方法	実験手順やレポートで評価 ( グラフを作成 )	
生徒の変容	授業で学んだ内容と実験で出した結果を比較することで内容の理解が深まった	
研究協議の内容・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の作業を短縮する工夫が良かった。実験は準備や片付けが大変。</li> <li>・ 内容を理解しないまま実験をしないような工夫が必要。</li> <li>・ グラフ用紙の使い方を指導できる良い機会</li> <li>・ 異なる実験方法で実験をしているので、結果の比較ができればよい</li> <li>・ 実験をすることが大事</li> <li>・ ユニークな実験。運動の法則を確かめる実験としては良い</li> <li>・ 作成したグラフからさらなる考察ができるところが良い。事後指導で考察を深めてほしい。</li> </ul>	

「授業研究会」「評価指導研究会」 指導計画

令和7年度実施

教科・科目	保健体育・体育		
対象	( 総合自然科学 ・ <span style="border: 1px solid black;">普通</span> ) 科 ・ 第 ( 1 ・ <span style="border: 1px solid black;">2</span> ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( <span style="border: 1px solid black;">発想力</span> ・ 思考力 ・ 発信力 ・ 共感力 )		
単元名	球技 (バドミントン)		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットの準備</li> <li>・ 点呼</li> <li>・ 準備体操</li> <li>・ 補強運動</li> <li>・ 本時の目標確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康状態の確認</li> <li>・ 本時の目標を確認させる</li> </ul>
	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロ選手の動画を確認</li> <li>・ 実際にシャトルを打ち合い、準備運動を行う。併せて、個々のラケット操作の課題を再確認する。(ヒットポイントの位置・シャトルに対しての動き方等)</li> <li>・ 動画を確認し、イメージと実際の動作の相違を確認させ、再度、課題解決に向けた、練習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題解決のため、繰り返し練習をさせる。</li> </ul> <p>適宜、タブレット等の動画機能を使用して外在的なフィードバックを行う。</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者比較や動画での動作確認を行い、新たな課題設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々に応じた課題設定を行わせる。</li> </ul>	
評価計画 評価材料／観点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの課題を明確にして修正できているか。</li> <li>・ 自らの課題解決のため、仲間と協力し計画的に取り組んでいるか。</li> </ul> <p>生徒の活動の様子・記録動画から評価する。</p>		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	保健体育科・体育	
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( 1 ・ <u>2</u> ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( <u>発想力</u> ・ 思考力 ・ 発信力 ・ 共感力 )	
単元名	球技 (バドミントン)	
学習活動	正しいストロークを身につける	
評価方法	事前に実業団選手のプレーの動画を確認した後ポイントを提示する。その後実際に本人のプレーを撮影しポイントにあげた部分が出来ているかを確認し評価をする。	
生徒の変容	ただ何となくシャトルを打つのではなく、落下地点に素早く移動し力強く打ち返すことができストロークに一定の安定感がでてきた。	
研究協議の内容・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入として世界トップクラスの試合を見ることで、生徒の興味・関心をつかみ、授業への意欲を高め、クラスを活性化させながら実技できていた。</li> <li>・ ポイントに挙げた部分が達成されていたら1点という加点方式でおこなったため生徒たちが一生懸命取り組んでいたことが良かったと思う。</li> <li>・ 撮影した動画の確認時間が少し長くなったため、運動時間確保の面で少なくなったので全体のバランスをもう少し考え改善をしていきたいと思う。</li> </ul>	

「授業研究会」「評価指導研究会」 指導計画

令和7年度実施

教科・科目	外国語・英語コミュニケーションⅠ		
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ 思考力 ・ <u>発信力</u> ・ 共感力 )		
単元名	Lesson 7 Bio-logging		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	15分	Kahootを用いたLesson7の復習 2人1組でタブレットを用いてKahootに参加する。バイオロギングについて教科書で学んだ内容を振り返る。	すべてのペアが参加できているか確認する。 協力して考えようとしているか、どの程度理解できているかを確認する。
	25分	生徒によるプレゼンテーション 3人1組で、次の内容についてプレゼンテーションを行う。 ①バイオロギングを使って調べたい動物 ②何を調べてみたいか ③それが科学にどのように役立つか	教科書で学んだ内容をもとに自分の考えを持ち、科学(社会)との関わりについて考えるか 自然に英語を話せているか
10分	ALTによるプレゼンテーション 実際のバイオロギングについてのプレゼンテーションを聞き、さらに理解を深める。	実際のバイオロギングについて知ること、より身近なものとしてとらえる	
評価計画  評価材料/観点等	原稿内容、原稿作成や発表準備への取り組みにより、発想力、思考力を評価する。プレゼンテーションにより発信力を評価する。		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	外国語・英語コミュニケーションⅠ	
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年	
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ 思考力 ・ <u>発信力</u> ・ 共感力 )	
単元名	Lesson 7 Bio-logging 話すこと (発表)	
学習活動	バイオリギングについてのプレゼンテーション	
評価方法	原稿内容、原稿作成や発表準備への取り組みにより、発想力、思考力を、プレゼンテーションにより発信力を評価する。	
生徒の変容	教科書の内容について、英語を日本語にして理解するという活動に終わらず、自分の考えや、科学 (社会) との関わりについても考えるようになった。自分の考えを「伝える」ことを意識するようになった。	
研究協議の内容・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入としてKahootを取り入れることで、生徒の興味・関心をつかみ、授業への集中力を高め、クラスを活性化させながら本文内容の確認ができていた。</li> <li>・内容理解をゲーム形式にすることで、難しい内容でも生徒が積極的に活動に参加する原動力となり、楽しみながら理解を深めていた。</li> <li>・ICTを効果的に取り入れ、生徒の知的好奇心を刺激していた。</li> <li>・教科書の内容を発展させて発表活動につなげていた。</li> <li>・生徒が自分事として捉えられる題材を選び、無理なく暗記できる適切な分量に調整していた。</li> <li>・3人1組のプレゼンにすることで、配役、時間に無理がなかった。</li> <li>・発表ポイントを示すことにより、生徒が英文をまとめやすくなっていた。ある程度型を作ることで発表の素地も定着するのではないか。</li> <li>・活動のゴールとして、ALTのプレゼンを取り入れることで、生徒が完成形をイメージできるようになっていた。</li> <li>・生徒が前向きに活動に取り組んでいた。</li> <li>・ALTの得意分野を活かすことができていた。もっと活用すべきなのではないか。</li> <li>・探究にも活かせるのではないか</li> </ul>	

「授業研究会」「評価指導研究会」 指導計画

令和7年度実施

教科・科目	家庭・家庭基礎		
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年		
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ 思考力 ・ 発信力 ・ <u>共感力</u> )		
単元名	様々な人への支援を考える		
学習活動	時間	指導内容	指導上の留意点
	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートの結果確認 視覚障害、膝屈曲困難に対する、支援についての意識調査を行う</li> <li>体験内容、方法の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Google Formを使用する 介護・支援に対する意識を確認させる</li> <li>プリント配布</li> </ul>
	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動の支援方法の確認</li> <li>体験 視覚障害体験グラス チェックシートに状態を記入する</li> <li>ひじ・ひざ用サポーター 支援方法などを考察する</li> <li>車いす 介護される側を体験して、気づいたことをまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリント (教科書P.76,77「移動の支援」)</li> <li>班に体験キットを配布する チェックシートに記録させる</li> <li>支援方法などを考察させる</li> <li>1班ずつ実施させる 座り方など安全に留意し実施させる。</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後アンケート</li> <li>振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Google Formを使用する</li> <li>アンケートの結果から意識の変化をまとめる</li> </ul>	
評価計画  評価材料／観点等	体験を通しての支援を必要とする人や支援を担う人に対する意識の変容を事前、事後のアンケートをもとに評価する。		

「授業研究会」「評価指導研究会」 実施授業の振り返り

令和7年度実施

教科・科目	家庭・家庭基礎
対象	( 総合自然科学 ・ <u>普通</u> ) 科 ・ 第 ( <u>1</u> ・ 2 ・ 3 ) 学年
育成を目指す力 (主となるものを1つ挙げる)	( 発想力 ・ 思考力 ・ 発信力 ・ <u>共感力</u> )
単元名	ともに生きる 「様々な人への支援を考える」
学習活動	車いすの操作、高齢者・障害者疑似体験を通して支援を必要とする人や支援をする人の気持ちを共感する。
評価方法	体験を記録し、気づいたこと、高齢者や障害者への配慮の仕方などを考察させる。
生徒の変容	学校周辺には高齢者が多く、高齢者の視覚体験を通して、登下校時のすれ違いや追い越し時の注意点など、生活の中で注意すべき具体的な事象に気づくことができている。
研究協議の内容・まとめ	<p>今回は、4人1班でひじ・ひざ用の屈曲困難体験用サポートと視覚障害体験用プレートを配布し、体験を行った。また、車いす体験は、時間の都合上、教室内で段差の乗り越えにチャレンジするにとどまり、乗っている者の気持ちを体感するには至らなかった。</p> <p>班内での体験においては、軍手を用いた指先の皮膚感覚の衰え体験など、種類をもう少し増やすことができるのではないかという意見があった。</p> <p>車いすの体験は、廊下などを利用し、もう少し広い場所で実際に移動を伴う実習にすることで、要介護者と介護者の会話なども考えることができれば、より効果のある授業になると考える。</p>